

20017

## 高度石灰化病変に対する IVUS を用いたスコアリング効果の評価

**【背景】**高度石灰化病変は、ステント拡張不良が認められることが多く、再狭窄率を高める可能性も否めない。このような病変では、スコアリングバルーンを用い、スコアリング効果により十分に前拡張させることで、ステントの良好な拡張が期待できる。しかしスコアリング効果における石灰化の割の評価は、スコアリングバルーンのブレードが 0.014inch 程度であるため、画像分解能が 15  $\mu$ m である光干渉断層法(以下 OCT)で行われており、IVUS を用いた評価の報告はされていない。今回我々は IVUS を用いてスコアリング効果の評価を行ったので報告する。**【方法】**高度石灰化病変に対し、ロータブレードにより石灰化を切削し、その後、スコアリングバルーンにて病変拡張を行った症例において、IVUS と OCT を施行し、ブレードによる石灰化の割の観察を行った。**【結果】**OCT では、割が良好に描出されており、石灰化の破断が 3 点観察された。その割の幅は大きいものから、0.61mm、0.25mm、0.17mm であった。一方、同部位に対する IVUS では、OCT による 0.61mm の割のみ石灰化の断裂が観察されたが、その他の割と一致する位置において多重反射像として観察された。**【考察】**本検討において、石灰化の断裂幅が小さい割が多重反射像として観察された。これは、石灰化の断裂片への超音波が、後方散乱を起こし、超音波探触子が時間差のある超音波を受信することによって多重反射像として観察されたと考えられる。このことにより、高度石灰化病変に対するスコアリングバルーンによる拡張効果は、IVUS を用いて評価できると考えられる。